

西小学校区「地域共生ステーション」打合せ会

開催報告

1 概要

- (1) 日時 平成25年5月13日(月) 19時から21時まで
- (2) 場所 桜作集会所
- (3) 参加者 10名
 - 報道機関 1名
 - 事務局 2名
- (4) 配布資料 別添のとおり

2 内容

(幹事)

地域共生ステーションは、地域の軸で集まり、何ができるかを考えていくことがポイントで、この場所における活動を通して、地域の中で住民同士が互いに支えあう『互助』を広げていくことが大切だと思っている。

本日は、前回(平成25年4月20日)の意見交換会で出された意見をもとにして、運営スタッフ、開場時間、利用規約などについて話し合っていきたいと思う。

その進め方としては、配布した資料で提示している「5つの枠組み」で話し合いを行い、そこで決まったことを積み上げていきたいと考えている。

■運営計画 : 組織体制について

■地域テーマ : 子育て・生きがい・ケア、個別テーマ、会議室の貸出方法

■施設オープンの日 : 開場時間、スタッフの配置

■協議会等のメンバー構成と役割

■その他の協議

まずは、この枠組みで打合せを進めていくことを承認していただき、その後、個別に検討を行っていききたいと思う。

⇒この枠組みで進めていくことを、参加者全員みんなで承認・共有

運営計画（組織体制）・施設のオープン日

（幹事）

まず、組織体制についてだが、運営スタッフの人件費の予算はどうなっているか。

（事務局）

今年度は、市で雇用する嘱託職員 1 名、臨時職員数名を想定して人件費の予算措置をしている。

（参加者）

まず、日常的な管理が運営スタッフには求められる。スタッフを募集する際には、募集人数や勤務条件などを考えておく必要がある。

（参加者）

スタッフの募集について考えるためにも、まずは、開場時間を決めることが重要ではないか。いつでも誰でも集まれる場にするのなら、基本的に年末年始を除いて、毎日終日開いていると良いのではないか。

（参加者）

子育て中の親子連れは、親同士が気軽に立ち寄って時間を過ごせる場所として 10 時から 16 時ごろの時間帯に開いているとうれしいと思う。

また、夫が土日にも出勤する人にとっては休日にも開いていると大変ありがたいと思う。

（参加者）

防災訓練のようなイベントを行うためにも土日も開場してはどうか。

また、朝は 10 時には開けて、利用状況によっては平日、例えば水曜日あたりに休館日があっても良いと思う。

（参加者）

いろんな人が使えるように、朝 9 時からオープンしたほうが良いのではないか。

（参加者）

カフェなどを始めることも考えると、朝 9 時ごろから夕方 5 時くらいまで開いているといいのではないか。

（参加者）

様々な利用者が集まりやすい開場時間として、朝 9 時から夕方 5 時までという時間帯は適当だと思う。あと、カフェについては、現時点ではあまり深く考えすぎないほうが良いのではないか。

（参加者）

開場時間は、運営スタッフの勤務条件にもつながることなので、はじめに欲張りすぎずに、まずは「できる範囲」でやってみて、利用状況をみながらだんだん広げていけばいいと思う。

（参加者）

『地域の人が気軽に集まり、語り合える場』として利用してもらうことを前提に考えて運営体制を整えてはどうか。

（参加者）

例えば、オープンから12月頃までを『プレオープン期間』として、運営スタッフの勤務条件や人員配置、開館時間などについて考える期間にしてもいいと思う。その期間内は、まちづくりセンターなど既存の施設の状況を参考にしながら、地域共生ステーションならではの特色をつくってあげればいいのではないかな。

（参加者）

施設の清掃はどうするのか。運営スタッフが行うのか、それとも自分たち利用者などのボランティアスタッフが行うのか。

（参加者）

多くの人に気持ちよく施設を利用してもらうために、清掃は業者に委託してはどうか。特にトイレを清潔に保つことは、多くの利用者にとって重要なことだと思う。

（参加者）

この地域共生ステーションを単に公共施設としてだけでなく、「生活の場」として自分の家（うち）と思うことはできないか。

清掃についても「業者に委託」してしまうより、「利用者みんなで掃除する」、「使った人がきれいにする！」ことが大切。それによって、きれいに利用することができるようになると思う。

（参加者）

常に利用者が清掃をするというのは大変だと思う。定期的な清掃は業者に委託し、利用者による清掃を年末の「大掃除」のようなイベントとして、「餅つき大会」などと同時にやってみたら楽しいと思う。

（参加者）

プレオープン期間に清掃のことも含め、運営について自分たちでできることを考えていろいろと実行していくことが今は大事。

（参加者）

先ほど、様々な人が集まりやすい時間帯である朝9時から夕方5時まで開場するという意見が出たのでプレオープン期間はその時間帯を開場時間にしてはどうか。

（参加者）

プレオープン期間に利用者の状況をみて開場時間も見直していけば良いと思う。

ステーションの利用者の範囲・利用制限

（参加者）

利用者の範囲・制限はどうか。例えば、西小学校区の住民が会議室を使いたい時に市外の人などの予約が一杯で利用できない状態は問題だと思う。利用料を徴収することも検討しても良いのではないか。

（参加者）

会議室の利用は、登録制にして利用料は無料にしても良いと思う。

（参加者）

会議室の利用希望者が同じ時間帯に集中してしまうことを考慮して、施設の予約や時間などを管理するコーディネーターのような存在が必要である。

（参加者）

使うスペースや時間の管理も運営スタッフ（コーディネーター）に任せきりにするのではなく、利用者同士が顔の見える関係をつくり、お互いに融通し合い調整することが、大切ではないかと思う。

（参加者）

これからは、今この話し合いに参加していない人たち、将来の利用者の使い勝手についても考えることが大切。

（参加者）

プレオープン期間中に、どんどん利用者同士で知恵（アイデア）を出し合いながら運営に反映していくことが大切だと思う。そうすることで、住民一人ひとりが地域共生ステーションについて考えるきっかけにもなるのではないか。

（参加者）

運営についてコーディネート幅を持たせるためにも、まずは基本の運営ルールとなる「利用規約」をつくっていかねばならないと思う。

(幹事)

本日の話し合いの結果、開場時間は、朝9時から夕方5時までとしていきます。

ただし、オープン後、今年の12月頃までは『プレオープン期間』として、実際の利用状況や使い勝手をみながら、開場時間など運営方法を考えていくこととします。

次回は、地域共生ステーションの利用方法について明確にするために、利用規約(ルール)について話し合っていきます。

今、行っているこの話し合い、そして地域共生ステーションでの活動を通して、住民の一人ひとりが、より良い地域をつくる主人公になってほしい。

今後、地域の暮らしの向上のために「子育て」「生きがい」「ケア」についてワークショップを行う「テーマ部会」についても考えていきたいと思います。

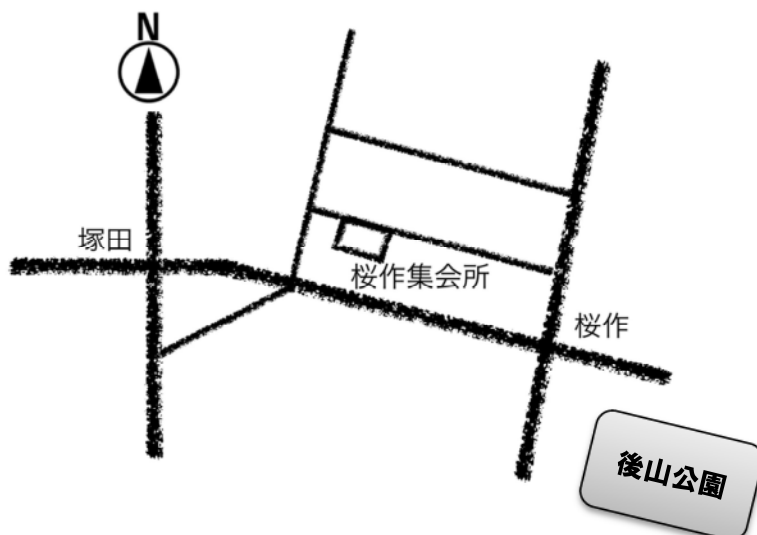
3 次回の開催案内(原則、毎月第2月曜日に開催)

日 時：6月10日(月) 19:00から

場 所：桜作集会所

内 容：利用規約について

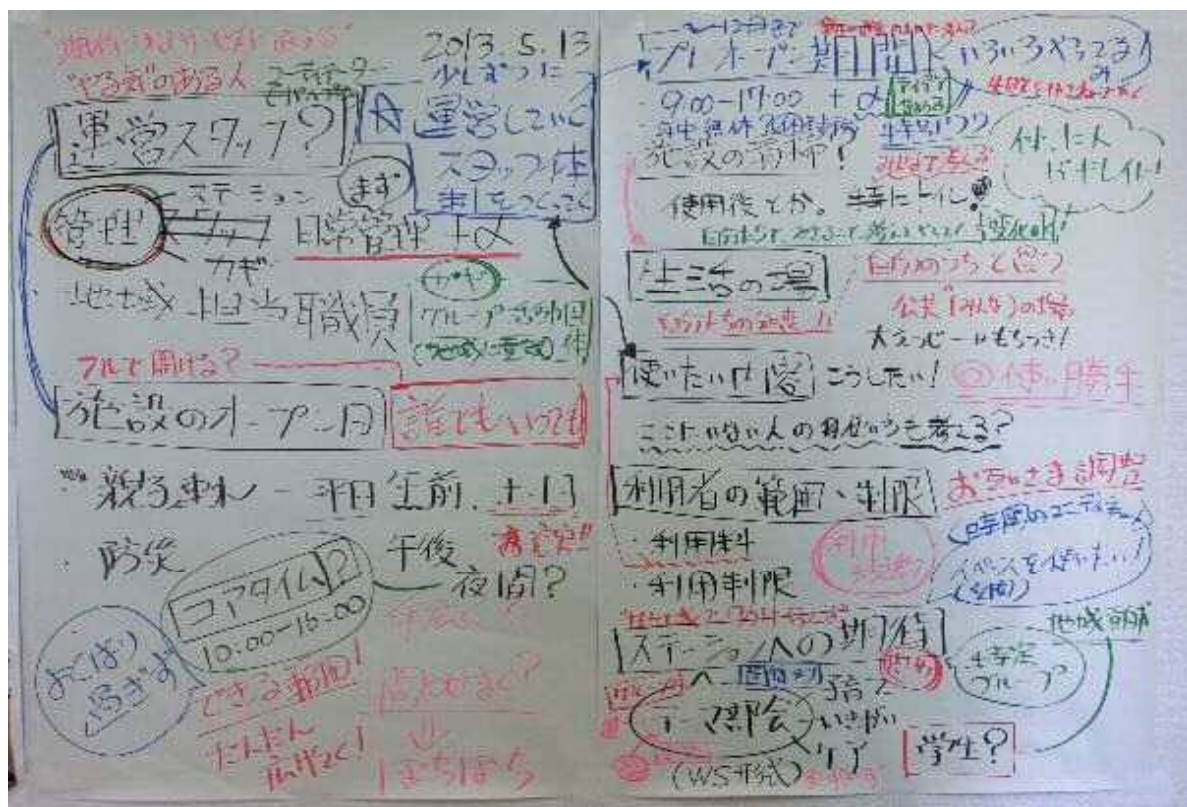
(利用者の範囲、利用料、利用制限、会議室の優先予約方法など)



【当日の様子】



【活動や運営のアイデア】



共生ステーション5月度テーマ

本日打ち合わせの内容は、平成25年4月の打ち合わせに基づき、

★管理人 ★開場時間 ★利用規約、★予約システム ★グループ についてです。

それに先立ち、4月のアンケートの結果、テーマに以下のものが提示されました。

- 子育て ベビーサイン教室（さとう）
- 生きがい 林 防災 出張サービス
さとう 手芸、花 （紹介）
- ケア ケア研究 横田 （市民ケアシステム）

また、アンケートより共生ステーションに期待するもの／その方法論として

- （深貝） 高齢者向け健康教室 健康情報交換場
子育て情報交換場 地域包括センターの協力により
- （肥田） 会議室。人が集まる場（交流、コミュニケーションセンター）
防災備蓄。 小さなグループ活動 運営委員会にて決定していく。
- （さとう） 小中高校生の居場所。アピタの様なお店にまさる魅力をつくる。
そのためには、一定の権限を持った組織作りが必要。
- （横田） 仲間との交流。グループ相互の交流。
住民の住み良いシステムを作る。
共生ステーションが何をやっているかの宣伝が必要。
- （林） 会議室（50人集合、駐車場あり）
運営は地元の年寄りでおこなう。
- （大藪） 人との連携、つながりができる場所となることを期待。
小さなグループから参加して、垣根を取っていくことができれば良いと思います。時間が解決してくれると考えます。

以上が提示されましたので、ご報告します。

本日の進め方ですが、まず、私が全体の会議の意味と協議会組織の概要をまとめましたので、それを原案として提示します。ご承認いただき、本日の打ち合わせに項目については、そのそれぞれの項目を討議して変更して決定していきたいと思います。よろしくお願いいたします。

原案の提示 ⇒ 承認

個別項目の議論⇒ 決定

（項目ごとにバージョンナンバーをつけて保存します。）

議論されなかった項目は原案のまま保存し、次回以降に打ち合わせて決定するものとします。

まとまったところで、西小校区地域共生ステーション協議会規約を作成し承認を受けることとします。

西小校区
共生ステーション協議会
の形成に関して
(原案提示)
平成25年5月13日



共生ステーション協議会 前文 アイデア

すべての人が主役になれる、自ら価値を作り出すコミュニティになる。当事者である参加者（高齢者を含む）が、自ら持つ資源を社会に提供しながら、より良い生活をしてより良い社会を作る主役になってもらう為に、本当に役に立つ共生ステーションの活動とは何かを考えつづける協議会（参加者を常に募集しつづける）共生ステーションとしては（時代により利用比率が変わる）おしつけがましいことは一切しない。

（地域の生活向上のための テーマ）

- 子育て： くつろげる時間 母さん一休み／拘束からの解放 いやしのひと時
- 生きがい： 健康情報や体操 男生き甲斐塾 地域交流、女塾
カルチャー／カウンセラー、コーチングなどにより欲望の整理、解放の制御（意欲をキープする）
- ケア： 安心と愛 頼れる居場所／精神的な安定

準備すべき情報として

- 市民生活の安心安全のための情報
- 子育てに必要な情報、利用できるケア情報
- シニアライフに必要な関係施設の情報 や活動情報 （地域包括センターと連携）
メンタルヘルス サポート紹介 大学で高齢者が学べる内容と場所を紹介

施設として提供していきたいイベント（徐々につくりあげていければ良い）

- プチカフェ のんびりサロン
モーニングカフェ 地域交流
- 健康体操 健康食品 健康活動 ピンピン教室
- シニアの話を聴く会 高齢者の話を若者にはなせる催し
- ケアサロン 共助としての福祉活動計画

原案全体をまずご承認ください。次に本日の討議事項によって項目を打ち合わせの上変更し議決します。

運営計画 V1.0

組織体制			
	管理	事務局 1名	市役所からの出向。予算申請、実績報告
		スタッフ4名	相談窓口としての機能を育成
	運営	合計5名	プラス住民参加の当日無償スタッフ数名
事務局： サイト管理、運営スタッフ募集・採用。広報、利用案内作成、利用実績集計			
ステーション協議会 (利用内容を決める)	月1回	議事録を作成 第2月曜日	自治会、防災会、子供会、シニアクラブ、防犯、民生委員、その他住民により構成する
テーマ部会	月1回	テーマごとの ワークショップ	協議会委員の前で、結果発表する。

地域テーマ V1.0

全体テーマ	管理、運営、行事	
子育て		
生きがい		
ケア		
個別テーマ	各	自治会、防災会、子供会、シニアクラブ、防犯
	各	子育てグループ、いきがいグループ、ケアグループ
会議場の貸し出し	西小区住民	長久手市民50%以上の団体？

施設のオープン日 V1.0

●事務局＋スタッフ 合計3名

○運営スタッフによりオープン 合計2名

	日	月	火	水	木	金	土
午前	○	●	●	●	●	●	○
午後	○	●	●	●	●	●	○
夜間	○	○	○	○	○	○	○

協議会等のメンバー構成と役割 V1.0

会の名称	メンバー	協議内容	
ステーション協議会 月一回第1金曜日 ステーションの管理 運営を考え、決める	自治会、防災会、 子供会、シニアク ラブ、防犯、民生 委員、その他住民	全体テーマ 組織体制 地域テーマ メンバー構成 施設オープン 主催事業立案 既成グループの問題点 個別テーマ承認	管理、運営、行事 子育て、生きがい、ケア テーマ部会のワーク ショップの発表を聴く ミニグループの取り扱い 規約の改廃

その他の協議 V1.0

- 1.ステーション協議会の権限をどのように担保するか。
2. 運営スタッフの地域コーディネーターとしての力量を増す為のトレーニングを市役所側が指導できる体制とすること。
3. 住民が主体性を持ち、コミュニケーションを増やせる様なきっかけ作りをどのように作り上げていくか。（可児文化センターでは、アウトリーチによりモダンダンス・ワークショップを実施している）
4. カフェの立ち上げをどうするか。（学生が考えている地域のカフェの協力をもらっては）
5. 鍵の管理者、夜間の会議の責任者（管理人、テーマ管理人が鍵を持つ但し個別テーマ除く）
6. 優先予約等の方法（自治会、防災会、子供会、シニアクラブなどが会議室を優先できる）
7. 共助の思想を広げていきたい。私たちには何ができるのだろうか。